

果樹経営継承事例調査結果
～令和元年度経営継承 二トリ観光果樹園（山本果樹園(株)）（余市町）～

■調査協力者（カッコ内の記号で発言者を整理）

| | | |
|--------------|---------|------------|
| 株式会社二トリパブリック | 社長室長 | |
| 山本果樹園株式会社 | 執行役員 | 似鳥 靖季 氏（◎） |
| 山本果樹園株式会社 | 取締役社長 | 山本 秀弘 氏（○） |
| | 営農技術者主任 | 三田 純也 氏（●） |

1 経営継承までの経過

- ◎ 前オーナーが亡くなり、代わりに経営を行ってくれないか似鳥昭雄氏に打診があり、もともと農業に興味があったこともあるが、地域のためになればと経営を受け継いだ。

2 移譲者とのつながり

- ◎○ 前オーナーの親戚（いとこ）である山本秀弘氏を取締役社長に迎え、生産全般を担当するとともに、他にも移譲者家族が構成員として参画。前経営時の従業員も継続して雇用。

3 経営継承において困難だったこと

- ◎ 前オーナーが亡くなり、事前準備なく一気に継承したため、大変だった。経営の実情を把握し、土壌の調査や事業計画書を作り込んで継承した方が良い。
- これまで果樹園の個人経営を長年行ってきた山本社長は生産技術面での苦労はなかったが、たくさんの人を雇用し、分担して作業を行う経験はなかったため、当初はどこまで自分が携わって良いのか苦慮した。山本果樹園(株)顧問に経営方針を相談したところ、分担を決めてもらい、生産と経営を分けたことでスムーズに進むようになった。

4 今後の課題と方向、経営継承してから新たにチャレンジしていること

- ◎ 地域のために経営を引き継いだので、地域と連携していきたい。
- ◎ 例えばりんご1個当たりの利益はどれぐらいになっているかを考えながら、利益を出すことを重視して経営を行うことが重要。
- 山本社長は、生産技術の後継者の育成に努めており、令和3年春に新入社員として入社した三田主任に数年間で基礎的な営農技術の伝承を行い、それ以後は三田主任独自のやり方を研鑽していったと欲している。
- 三田主任は酪農を勉強していたが北海道のりんごに感動し、果樹生産の盛んな余市で果樹に携わる仕事がしたかった。
- ◎ 新しいことに取り組んで価値を見いだすこと、余市でしかとれないものなどブランディングも視野に進めていく。
- ◎ 従来の果樹は維持しながらも、ワインづくりに向け、新たに醸造用ぶどうを植える予定



<執行役員 似鳥靖季氏>



<取締役社長 山本秀弘氏>



<営農技術者主任 三田純也氏>